

職種定義

物流貨物輸送

職種51



ワールドスキルズインターナショナルは、その競技運営委員会の決議により、またその憲章、運営規則および競技規則に基づいて、技能五輪国際大会の本職種における下記の最低要件を承認している。

本職種定義は以下の内容で構成されている。

1	序文.....	3
2	ワールドスキルズ職業基準 (WSOS)	5
3	評価戦略と仕様	11
4	評価設計と実践	12
5	競技課題	16
6	職種管理および情報伝達.....	19
7	職種限定の安全要件	21
8	材料および機材	22
9	職種限定規則	24
10	エキスパートの知識と経験	25
11	来場者とマスコミに対する職種の広報活動.....	26
12	持続可能性.....	27
13	産業界との協議に関する情報.....	28
14	付録.....	29

1 序文

1.1 職種競技の名称と説明

1.1.1 職種競技の名称

物流貨物輸送

1.1.2 関連する職務または職業の定義

物流業務は国際輸送・サービスに重点を置いている。物流担当者/貨物輸送者は、顧客に代わって、ある場所から別の場所への荷物の移動を管理する。通常は商業ベースで、かつ強固な法的・財務的枠組みの中で、これを行う。輸送手段には、道路、鉄道、航空、船舶、またはこれらの組み合わせが含まれる。物流担当者/貨物輸送者には、税関手続、保険および法律（IATA協定、海事法、ICC規約や国際輸送を管理するあらゆる国際規制）の要件に準拠する全ての必要書類を確認するための専門知識が求められる。

この職務は、他の組織や個人を代理して貨物を移動させることを主な目的とする、大小の規模の物流組織に存在する場合がある。国内のまたは国際的なサプライチェーン内にも存在しうる。

物流担当者/貨物輸送者の作業環境は通常、ITCサービスを備えたオフィスである。職務の範囲は組織の規模によって決まり、通常は組織が大きいほどその職務は専門化したものとなる。専門的な職務は、代理業者にアウトソーシングまたは下請けに出すこともある。しかしながら、職務範囲の広さに関わらず、その中心となるのは見積書の作成、発注への対応およびコストと価格の計算である。物流担当者/貨物輸送者は、時には（一般的には英語を含む）2か国語以上を使用して、書面や電話でやり取りを行う。また、彼らは配達受領書を作成し、苦情にも対応する。小規模でありあまり部門化されていない組織では、物流担当者/貨物輸送者は輸送や倉庫保管の調整を求められることもある。この職務をペーパーレス環境で行う場合も増えている。

物流担当者/貨物輸送者は自身の仕事の質に個人的に責任を負っているが、貨物の移動は24時間業務であるため、他の貨物輸送者、また、組織の手続や制度のより広範な性質の両方と相互に依存している。組織において貨物輸送者は顧客と接する部門であり、その取引により契約が結ばれ、その契約は堅く守られ、コスト効率が高く、そしてリピート ビジネスを促進するものでなければならない。最初の問い合わせから安全な配送を通して、物流担当者/貨物輸送者の顧客とのコミュニケーションの質は、極めて重要である。これは特に顧客からの苦情に当てはまり、その場合、契約したサービスの各段階に関する詳しい知識と所定の手順内での効率的な問題解決が必要となる。

物流担当者/貨物輸送者は、目的通りに機能する貨物移動プロセスの各段階に依存する。したがって、彼らの仕事は多くの人的・非人的要因から影響を受ける。地域および全国的には、天候や主要な祝祭・祝日を含む季節要因、またインフラ要因が存在する。国際貨物ではこの要因は増加し、最も複雑なもの1つは通関手続である。物流・供給市場における組織の位置づけによっては、貨物に例外的な配慮、または緊急・優先的な取り扱いが必要になる場合もある。そのため、物流担当者/貨物輸送者は、余裕の無い手順の中で働いているにも関わらず、自身の職務に日常的または突発的に影響する大小さまざまな問題に非常に敏感に反応しなければならない。

物流・貨物輸送は成長しているセクター（分野）であり、これはグローバル化と関連している長期的な傾向である。したがって、雇用面では非常に魅力的な分野である。同時に、このセクターはネットワークの統合とロボット工学の進展に伴い、大規模かつ急速に技術による劇的な変化の影響を大きく受けやすい。

商業、社会、環境の利益のため、正確かつ必要に応じて素早く反応できる物流担当者/貨物輸送者は、この変動と成長を利用して確固たる地位を得るであろう。

1.1.3 チームの選手数

物流/貨物輸送は、選手1人による職種競技である。

1.1.4 選手の年齢制限

選手はその技能競技大会の年において22歳以下でなければならない。

1.2 本書の位置づけおよび重要性

この文書には、この職種競技に出場するために求められる基準、および競技を運営する上での評価の原則、方法、手順に関する情報が記載されている。各エキスパートおよび各選手は、この職種定義について理解しておく必要がある。

「職種定義」の異なる言語間の解釈の相違に際しては、英語版が優先される。

1.3 関連書類

この職種定義は職種限定の情報のみを含むため、以下のものと共に用いること。

- WSI—倫理・行動規範
- WSI—競技規則
- WSI—ワールドスキルズ職業基準の枠組
- WSI—ワールドスキルズ評価戦略
- WSI—本文書に記されているオンラインの情報源
- ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制
- ワールドスキルズ基準評価ガイド（職種限定）

2 ワールドスキルズ職業基準 (WSOS)

2.1 WSOSに関する一般的な注意事項

WSOS は、技術的および職業的能力における国際的な最良事例を実証する知識や理解および特定の技能について詳述している。これらは職業に特有のものであると同時に、横断的なものでもある。産業界およびビジネスにおいてその関連する職務または職業が象徴するものについて、全世界で共有される理解を反映したものでなければならない (www.worldskills.org/WSOS).

職種競技は WSOS の記述に従い、国際的な最良事例を可能な限り反映することを目的としている。したがって、WSOS は、職種競技のために必要とされる訓練や準備についての指針でもある。

職種競技において、知識や理解の評価は実技の評価を通して行われる。知識や理解力のテストは、それらを覆す理由が無い限り、別途行うことはない。

WSOS は、見出し付きのセクションで区切られ、参照番号が付いている。

各セクションで合計点における割合（パーセント）が定められ、WSOS に占める相対的重要性が示されている。これはしばしば「重要度」と呼ばれる。すべての評点の合計は100点である。重要度は、採点スキーム内の評点の配分を決めるものである。

競技課題を通して、採点スキームは、WSOSに記載されている技能のみを評価する。それらは、職種競技の制約内で可能な限り包括的に WSOS を反映する。

採点スキームは、実際に可能な範囲で、WSOS 内の評点の割り当てに従う。WSOS で規定されている重要度を歪めない限り、最大 5% までの変動は許容される。

2.2 ワールドスキルズ職業基準

セクション	相対的重要性 (%)
1 作業の構成と管理	10
<p>各人は次の知識を有し、理解していなければならない：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 商工業における貨物輸送の位置づけ • さまざまな種類の組織における貨物輸送の位置づけ • 貨物輸送職務の境界 • 隣接的な職務や責任を有する者への貨物輸送職務の影響 • 24時間の国際業務の職務への影響 • 気候、タイムゾーンとインフラの観点からの人文地理学 • 荷物の効率的な移動に影響を与える主なリスク 	

セクション		相対的重要性 (%)
	<ul style="list-style-type: none"> • 荷物の移動が安全衛生にもたらす危険やリスク • 荷物の移動における持続可能なソリューションの必要性 • 職務に関し、以下の者に対して負う義務 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 取引先 ◦ 同僚 ◦ 顧客。 	
	<p>各人は以下の能力を有すること：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 職務の中心的な機能を管理すること • 業務の山と谷に効率的に対応すること • 通常の業務過程で発生する問題を解決または結果の影響を軽減すること • 効率性と安全性の高いワークスペースを維持すること • 持続可能な労働と解決策の必要性を考慮すること • プレッシャーの中でも適正なプロセスを維持し説明責任を果たすこと • 例外的状況に効率的に対応すること • 個人的に対応ができない場合に、自分の領域内の問題に他の人が対処し、解決できるようにすること。 	
2	顧客との関係	25
	<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 顧客と共に、また顧客のために業務を行う際の言動に関する原則 • 顧客や荷物の種類に関連する業務の方針および姿勢 • マーケティング・宣伝の戦略と手法の基礎となる原則 • 文化的な規範と期待 • 顧客が望むコミュニケーション形式の種類 	
	<p>各自は以下を実施できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 法の枠組みを利用して以下を行う。 • 顧客と口頭でコミュニケーションをとる。 • 顧客と書面でコミュニケーションをとる。 • 意思疎通の際に、上記の両方で明確さを維持する。 • 可能な柔軟性の範囲内で、金額に見合う信頼と価値を顧客に提供する。 • 関連リスクや不確実性が妥当する場合、顧客をそれらのために備えさせる。 • 訪問、提案および付加価値があるサービスを通じて、新たな顧客や取引を獲得する。 	
3	商取引	20

セクション		相対的重要度 (%)
	<p>各人は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 以下を含む、一般的または具体的な荷物移動の選択肢および手順： <ul style="list-style-type: none"> ◦ 道路 ◦ 鉄道 ◦ 航空 ◦ 船舶 • 最適なルート計画のための地理的な前提条件 • 荷物の移動を追跡・監視するための業界特有の選択肢 • 通関手続と海外貿易に関する法律の意味合い • 売買契約の内容、その他の関連する契約の内容と業務におけるそれらの利用方法 • 個人データと機密データの取り扱いに関する法的枠組み • 保険の原理と荷物の移動への応用 • 雇用関係法の基礎 • 収益と支出 • 予算の作成 • 法人税と関税の基本的な要点 • さまざまな支払方法の長所と短所 • さまざまな支払方法の商業的・法的な意味合い • インボイスの要素 • 支払取引に関する手順 	
	<p>各人は以下の能力を有すること：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 顧客の言動を理解した上で金銭に関する決定を下す。 • 特定の行動計画を推奨するために、費用対効果を計算する。 • 個人データやその他の機密データの取り扱いと保護を行う。 • 契約による結果をリスク評価する。 • 保険に関して以下を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 保険の必要性を評価する。 ◦ 保険に加入する。 ◦ 損失または損害に基づき保険金請求を行う。 • 法的枠組みを利用して以下を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 契約に着手する。 ◦ 契約を締結する。 ◦ 契約を履行する。 	
4	原価計算と価格設定	20
	<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 会計の原則と正式な要件 	

セクション		相対的重要度 (%)
	<ul style="list-style-type: none"> ・領収書を分析および計上する方法 ・費用削減と資金調達の様式の目的 ・国内および国際的な支払取引の基礎となる原理と実務 ・取扱注意の/緊急の/危険な荷物を特定、ラベル付け、輸送する方法 	
	<p>各自は以下を実施できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収支を記録する。 ・国内および国際取引を扱う銀行サービスを、条件を考慮しながら比較して評価する。 ・関連する料金制度を調査し、費用対効果の分析に取り入れる。 ・輸入手数料を計算する。 ・レートや条件を比較しながら取得コストを計算する。 ・価格対性能の比率に基づき、質的・量的な選択をし、正当性を証明する。 ・数量と価格に関する計算を行う。 ・計算を確認しインボイスを作成する。 ・輸入・輸出に関する計算と原価計算を含む取引の原価計算を行う。 ・価格と割引額を計算する。 ・見積を比較する。 ・取扱注意の/緊急の/危険な荷物に関する業界特有のラベル付けや安全要件を特定し、解釈する。 	
5	情報通信技術	7
	<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな標準ソフトウェア ・組織内ソフトウェア ・取引ネットワークの維持管理と安全のための組織内プロトコル ・顧客ニーズやサービスの分析と管理のためのICTとAI（該当する場合）の利用 ・ICTの利用に関する安全な仕事の仕方 ・マーケティングやPR目的でのICTの利用 	
	<p>各自は以下を実施できること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的なニーズや動向に合うように、ITスキルを維持し、向上させる。 ・安全で、信頼でき、かつ適切な方法でITを利用する。 ・商取引の全ての局面にITを利用する。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 書面によるコミュニケーション ◦ サプライヤーの選定、見積り取得、注文 ◦ 契約書、納品書 ◦ インボイス ◦ 支払い 	

セクション		相対的重要度 (%)
	<ul style="list-style-type: none"> 組織のニーズやトレンドに対応するため、AIの技能（該当する場合）を維持・向上させること 権限を与えられた者が必要に応じ、情報に容易にアクセスできることを確実にする。 プレゼンテーション、フィードバック、データの設計と提供などを通じて、ビジネスを勝ち取り、維持するために、ICT を使用する。 	
6	危機管理	8
	<p>各自は以下を知り、理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 法律の原則と貨物輸送への適用 以下に該当する形式、手続と条件 セクター（分野）内の正式な契約と交渉に適用されるもの 輸出側と輸入側との間でのリスク分散に影響を与えるもの リスク、原価配分と、その先に続くもの 契約違反の性質と原因 品質保証と品質管理に関する原則、方針と手順 ミスや苦情の後の反省や振り返りの原則 持続的な品質改善への戦略と手法 緊急時の措置 荷物の移動が環境に及ぼす影響 	
	<p>各自は以下を実施できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取引を扱う際の業界特有の問題について、法的な選択肢を調査する。 業界特有の問題に適切な方法で対応する。 契約違反に適切に対応する。 講じる措置の流れを説明し、記録する。 緊急事態や重大な障害に対応する。 緊急事態や重大な障害を品質向上の基盤として扱う。 隣接する、より広範なワーク・グループ内で持続的な品質改善手法を用いる。 意思決定の過程に環境への配慮を取り入れる。 	
7	持続可能性	10
	<p>各自は以下を理解していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能性のさまざまな側面と、物流/貨物輸送業界に持続可能性がどのように浸透しているか。 持続可能なサプライチェーンを推進するビジネスの情勢 ライフサイクル分析と持続可能な材料 カーボン・フットプリント 	

セクション	相対的重要性 (%)
<ul style="list-style-type: none"> • サプライヤーのネットワーク • サプライヤーとの関わり • 倫理的およびグリーンな調達为推进要因と障壁 • 倫理的な調達のためのツール • 貨物輸送による環境への影響。輸送手段 • 貨物輸送による環境への影響を軽減する戦略 	
<p>各自は以下を実施できること。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジネスにおける持続可能性の概念と、それが物流/貨物輸送にどのような影響を与えるかを考慮する。 • グローバル・サプライチェーンに関連する、ガバナンス・システムについての昨今の議論を評価する。 • 物流事業、寿命管理、リバース・ロジスティクスによる環境への影響を考慮する。 • 経済的、環境的、社会的影響を考慮して、持続可能な物流の意思決定のトレードオフと影響を評価する。 	
<p>合計</p>	<p>100</p>

3 評価戦略と仕様

3.1 一般的なガイダンス

評価はワールドスキルの評価戦略を用いて管理する。この戦略では、ワールドスキルの評価と採点において遵守すべき原則や技法を規定している。

エキスパートによる評価の実施は、技能五輪国際大会の中核を成している。この理由により、継続的な専門性開発や精査の対象となっている。より高い専門性が評価に求められるようになると、採点スキームや競技課題、および競技情報システム（CIS）などの技能五輪国際大会で使用される主要な評価手段の将来的な使用法と方向付けに影響を与える。

技能五輪国際大会の評価方法は、メジャメント（測定）とジャッジメント（判定）の2つに大きく分けられる。両方の評価方法につき、各評価細目を採点するのにどちらの方法を使用するかについて明確なベンチマークを適用することが、質を保証する上で不可欠となる。

採点スキームは **WSOS** における重要度に従う必要がある。競技課題は職種競技の評価手段であり、したがって、**WSOS** にも従うものである。**CIS** は、タイムリーで正確な採点の記録を可能にする。**CIS** の精査、サポート、フィードバックの可能性は継続的に拡大している。

採点スキームは、概ね、競技課題の設計過程でその指標となる。その後、採点スキームおよび競技課題は、両者一体となって **WSOS** および評価戦略との関係性を最適化することを保証するため、反復作業を通して設計、開発、および検証される。採点スキームと競技課題は共にその品質および **WSOS** との一貫性を示すためにエキスパートの同意を得、**WSI** からの承認を求めて提出される。

WSI の承認を得るための提出以前に、採点スキームと競技課題は、その品質を保証し、**CIS** の実効性を確保するために、**WSI** の職種アドバイザーと連携する。

4 評価設計と実践

4.1 一般的なガイダンス

ここでは、採点スキームの役割と位置づけ、競技課題を通して実施された選手の作業に対するエキスパートの評価方法、ならびに採点の手順と必要事項について記述する。

採点スキームは、それが各職種競技を表す基準と評価をつなぐものであるという点において、技能五輪国際大会における極めて重要なツールであり、それ自体が世界的な職業を表す。また採点スキームは、作業に対する各評価細目の評点が、WSOS 中の重要度に応じて配点されるように設計される。

WSOS における重要度を反映することにより、採点スキームは競技課題設計のためのパラメータを確立することになる。職種競技の性質やその評価のために必要なニーズによっては、競技課題設計の手引きとして、最初に採点スキームをより詳細に開発することが適切な場合がある。あるいは最初の競技課題は採点スキームの概要に基づいて設計することができる。この時点より後においては、採点スキームと競技課題は同時に開発すべきである。

2.1 では、実行可能な代替案がない場合、採点スキームと競技課題がどの程度まで WSOS 内の重要度から乖離してよいかを説明している。

誠実性と公平性のために、採点スキームと競技課題は、関連する専門知識を持つ 1 人以上の独立した者によって設計および開発されるようになってきている。こうした例として、採点スキームおよび競技課題は、職種競技または職種競技モジュールの開始直前まで、エキスパートには見られないようにしている。詳細かつ最終的な採点スキームおよび競技課題がエキスパートによって設計される場合、独立した認証と品質保証のための提出に先立ち、エキスパートのグループ全体でそれらを承認する必要がある。詳細は、規則を確認すること。

エキスパートおよび独立した評価者は、完了前に十分な余裕を持って、検討、検証、および妥当性確認のために採点スキームおよび競技課題を提出する必要がある。また、品質保証のため、そして CIS の機能を最大限に活用するために、設計および開発のプロセス全体を通じて、職種アドバイザー、検討者、および検証者と協力して作業することも期待される。

全ての場合において、採点スキームの草案は、遅くとも技能競技大会の 8 週間前までに CIS に入力しなければならない。職種アドバイザーはこのプロセスを積極的に手助けする。

4.2 評価基準（の項目）

採点スキームの主要な見出しは、評価基準（の項目）である。これらの見出しは競技課題よりも前に、または競技課題と連動して生成される。職種競技の中には、評価基準（の項目）が WSOS のセクション見出しと類似しているものもあれば、異なっているものもある。通常 5~9 個の評価基準（の項目）がある。見出しが一致する、しないに関わらず、採点スキームは全体として WSOS における重要度を反映しなくてはならない。

評価基準は採点スキームを作成する個人（または複数人）により作成され、作成者は競技課題の評価や採点に最適であると考えられる評価基準を自由に決定できる。各評価基準（の項目）は A から I までのアルファベットで示される。評価基準、評点の配分、および評価方法は、この「職種定義」内に記載しないことが望ましい。これは、評価基準（の項目）、評点配分、そして評価方法がすべて、この職種定義の公開後に決定される採点スキームと競技課題の性質に依存するためである。

CIS により作成される採点集計様式 (Mark Summary Form) は、評価基準 (の項目) および副基準のリストを構成するものである。

各評価基準 (の項目) に割り当てられた評点は、CIS によって計算される。これらは、その評価基準内の各評価細目に付与された評点の累積合計になる。

4.3 副基準

各評価基準 (の項目) は一つ以上の副基準に分けられる。各副基準はワールドスキルの採点様式の見出しになる。各採点様式 (副基準) は、メジャメントまたはジャッジメント、あるいはその両方により評価され採点される評価細目で構成される。

各採点様式 (副基準) には、採点日および採点チームの識別情報を記載する。

4.4 評価細目

各評価細目は、評価および採点される単一の項目を評点とともに規定し、また採点のためのガイドとしての詳細な説明または指示を細かく定義する。各評価細目は、メジャメントまたはジャッジメントによって評価される。

この採点様式は、配点とともに各評価細目を細かくリスト化している。

各評価細目の配点の合計は、WSOS の該当セクションで指定された評点の範囲内に収めなければならない。これは、以下に示すような CIS の配点表に表示され、大会開催 8 週間前の採点スキームの検討時に実施される。(4.1 を参照)

	CRITERIA								TOTAL MARKS PER SECTION	WSSS MARKS PER SECTION	VARIANCE	
	A	B	C	D	E	F	G	H				
STANDARDS SPECIFICATION SECTION	1	5.00								5.00	5.00	0.00
	2		2.00					7.50		9.50	10.00	0.50
	3								11.00	11.00	10.00	1.00
	4			5.00						5.00	5.00	0.00
	5				10.00	10.00	10.00			30.00	30.00	0.00
	6		8.00	5.00				2.50	9.00	24.50	25.00	0.50
	7			10.00				5.00		15.00	15.00	0.00
TOTAL MARKS		5.00	10.00	20.00	10.00	10.00	10.00	15.00	20.00	100.00	100.00	2.00

4.5 評価と採点

各副基準にはひとつの採点チームが存在し、ジャッジメントまたはメジャメント、あるいはその両方で評価および採点を行う。同じ採点チームがすべての選手を評価し、採点しなければならない。これが実行不可能な場合 (たとえば、すべての選手が同時に動作を行わなければならない、それを監視していなければならない場合)、競技運営委員会管理チームの承認のもとに、第 2 段階の評価と採点が行われる。

採点チームは、いかなる状況でも同国人の採点をしないよう手配される。(4.6 を参照)

4.6 ジャッジメントによる評価と採点

ジャッジメント（判定）には 0 から 3 の数字を用いる。厳密に一貫性を保った尺度を適用するため、以下を用いて判定する。

- 評価細目ごとの詳細なガイダンスのためのベンチマーク（基準）（文言、画像、人工物、あるいは別のガイダンス）。これは「基準と評価の手引き」に記されている。
- 評点0～3は以下を示す：
 - 0：業界水準以下の実技
 - 1：業界水準を満足する実技
 - 2：業界水準を満足しており、特定の分野においては業界水準を上回る実技
 - 3：全体的に業界水準を上回り、優秀と判断される実技

3 人のエキスパートが、通常は同時に各評価細目を判定し、得点を記録する。4 人目のエキスパートは、採点を調整および監視し、それらの妥当性を確認する。また彼らは、同国選手の採点を防止するために、必要な場合には判定員としての役割を果たす。

4.7 メジャメントによる評価と採点

通常、3 人のエキスパートが各評価細目の評価を行い、4 人目のエキスパートが監督する。状況によっては、二重採点のためにチームを 2 組のペアとして構成する場合がある。特に規定のない場合には、最高点または 0 点が付与される。点数を細分化する場合は、その採点に関するベンチマークを評価細目ごとに明確に定義すること。計算または送信のエラーを回避するため CIS には多数の自動計算オプションが用意されており、その使用が義務付けられている。

4.8 メジャメントとジャッジメントの使用

基準の選択および評価方法に関する決定は、職種競技を設計する過程で、採点スキームと競技課題を通して行うこと。

4.9 職種の評価戦略と手順

ワールドスキルズは継続的な改善に取り組んでおり、それは過去における制限の振り返りや良い慣行を築くことを含む。下記に記す本職種競技の評価戦略と手順は、上記を考慮し、採点プロセスの管理方法について述べる。

採点チームは競技規則に従って編成される。

独立した競技課題設計者が作成する評価基準は、各評点が付与される根拠を明示する簡潔な採点細目とする。

- メジャメント（測定）による採点は、作業が可/不可で測定できる、または測定可能な物に対して数値的尺度で測定できる場合に使用される。
- ジャッジメント（判定）による採点は、直接または顧客などの代理人を通じて特定された、業界の期待に対する評価が具体的にベンチマークされている場合において、質を評価するために用いられる。
- メジャメント採点とジャッジメント採点の両方が必要とされる。
- 評価はプロセスと結果の両方を対象とする。
- プレゼンテーションに基づく評価は、評点の25%以下で、下記に基づいて行われる。
 - 数字および図表の情報
 - この職業の世界共通の運用言語である英語の限定的な語彙の使用

すべてのシナリオとロールプレイは、評価のためにワールドスキルの電話などの機器で記録されなければならない。

5 競技課題

5.1 一般的な説明

3（評価戦略と仕様）および4（採点スキーム）では、競技課題の開発について規定している。以下の記述は補足である。

競技課題は、それが単体のものでも、複数の独立または関連したモジュールの集合体でも、WSOSの各セクションで規定された応用知識、技能、および振舞いに対する評価を可能とすること。

競技課題の目的は、均衡が取れかつ真正で完全な評価・採点の機会を、WSOS全体を通して、採点スキームとの連携において提供することである。競技課題と採点スキームおよびWSOSの関係性が、品質における重要な指標となる。実際の作業パフォーマンスとの関係性についても同様である。

競技課題は、2（ワールドスキルズ職業基準）で示された状況以外では、WSOSの範囲外の領域をカバーしたり、WSOS内の評点のバランスに影響を与えることはない。この職種定義では、WSOSに関係する全範囲の評価をサポートするため、競技課題の性質に影響を与えるいかなる問題についても記載する。2.1を参照のこと。

競技課題は、実際の作業における応用を通してのみ、知識および理解を評価することができる。競技課題は、ワールドスキルズの規則と規制に関する知識を評価するものではない。

現在、ほとんどの競技課題（および採点スキーム）は、エキスパートから独立して設計および開発されている。これらは、職種競技マネージャまたは独立した競技課題開発者によって、通常は大会開催12か月前から設計および開発される。それらは、独立した検討、検証、および妥当性確認の対象となる。（4.1を参照）

以下に提示する情報は、この職種定義の完成時点で判明している内容および機密保持要件の対象となるものである。

詳細については、最新版の競技規則を参照すること。

5.2 競技課題の形式/構造

競技課題は、5～7個の個別評価モジュールで構成される。

競技課題は英語のみで提供され、翻訳は不要である。業界の世界共通語は英語である。

5.3 競技課題の設計要件

競技課題は、基礎となる職務の目的、構造、プロセス、結果を反映すること。また、その職務の小規模バージョンを目標とする。実用性に注視する前に、SMTはセクション5.1に記載のとおり、その競技課題が、WSOSにおいて包括的で、バランスの取れた、正真正銘の評価採点を提供していること示すこと。

以下の形式/構成が適用される。

選手は15～22時間にわたって、模擬的な物流環境内で競技を行う。職種競技は以下で構成される。

- 貨物輸送者の中核的職務を反映し、この職務を行うセクター（分野）での事業のピークと流れを反映するようタイミングを合わせた一連の作業

- 環境とこの職務に共通する問題を重ね合わせたもの
 - 例：苦情、悪天候、短時間の停電
 - 職務に影響する少数の重大な障害：主に緊急のおよび/または慎重を期すべき業務

独立した競技課題考案者が確保できない場合には、職種競技マネージャが競技課題と採点スキームを作成する。すべてのエキスパートは、技能競技大会の9か月前までにモジュールに対するアイデアを職種競技マネージャへ送ることができる。職種競技マネージャは、職種定義の全ての部分を満たしていることを考慮に入れ、競技課題に関する最終決定を行う。

物流/貨物輸送者は世界規模のビジネス領域で活動しているため、全てのやり取り（競技課題、全ての文書、文書または口頭によるプレゼンテーション）は英語で行われる。選手にとって好ましい言語に翻訳することは許可されない。

競技課題は、実際の労働環境に非常に近く、世界的に認められた一般的な基準で認められた物流/貨物輸送専門家の日々の活動で構成される。競技課題はモジュール式および/または非モジュール式となる（混合式）。

セクション4.7および5.2に規定されている枠組み内で、競技課題の評価と採点は、競技1日目、2日目、3日目および4日目において毎日完了する必要がある。

競技課題の紹介は、競技1日目の競技開始30分前に行われるが、競技の全日程を通じ競技課題で与えられたタスクを遂行し達成するのに必要な結果の完全な可視化は含まれない。その限界の下にある技能競技大会では、実環境を模した物流環境が作られる。そのため、選手が初日に受け取るのは極めて基本的な情報のみである。その大部分は、選手がタスクを技術的に完了するための方法（電子メールアドレス、正しい件名やテンプレートの作成方法などを含むが、これに限定されない）を支援および/または案内するためのものであり、また、選手が競技課題に取り組む際に何を行うことになるかについての非常に基本的だが（高レベルな）序説である。

この職種定義で提供されている情報以外の、採点スキームと競技課題に関連するその他の情報は、貨物輸送者の作業環境を模した方法で提供される。

5.4 競技課題の調整と開発

競技課題は、必ずワールドスキルズインターナショナルが提供するテンプレートを用いて提出すること（www.worldskills.org/expertcentre）。テキスト文書には Word テンプレートを、図面には DWGテンプレートをを使用すること。

5.4.1 競技課題の調整（技能競技大会の準備）

競技課題の調整は、SCMが行う。

5.4.2 競技課題/モジュールの開発者

競技課題/モジュールは、独立した競技課題考案者（ITPD）が職種競技マネージャと協力して作成する。

5.4.3 競技課題の開発時期

競技課題/モジュールは以下のタイムラインに従って開発される。

時間	活動
大会の15ヶ月前	ITPDが特定され、WSIとITPDの間で秘密保持契約が締結される。

時期	実施内容
本大会の2ヶ月前	競技課題の文書が、WSIの職種競技管理マネージャに送られる。
大会での各モジュール開始時	競技課題/モジュールが、エキスパートおよび選手に提示される。

5.5 競技課題の初期検討および検証

競技課題の目的は、特定の職業における傑出した実践者の作業生活を真に象徴するように、選手への課題を作成することである。こうすることで、競技課題は採点スキームを適用し、WSOSを完全に代表することになる。この意味で、競技課題はその文脈、目的、行動、および期待において特有なものである。

競技課題の設計と開発をサポートするために、厳密な品質保証と設計プロセスが実施されている（競技規則の 10.6-10.7 を参照）。ワールドスキルズによって承認されると、独立した競技課題設計者は、競技課題の妥当性確認に先立って設計者のアイデアおよび計画に対する初期的な検討を行い、続いて競技課題を検証するための 1 人以上の独立した、専門家でありかつ信頼できる個人を特定することが期待される。

職種アドバイザーは、この手配を確実に調整し、競技規則の 10.7 を支えるリスク分析に基づいて、初期検討および検証の双方の適時性と完全性を保証する。

5.6 競技課題の妥当性確認

職種競技マネージャは、妥当性確認に関する調整を行い、競技課題/モジュールが選手の材料、機材、知識、および時間の制約内で完了できることを保証する。

5.7 競技課題の公開

競技課題/モジュールは、技能競技大会以前には公開されない。競技課題/モジュールは、各モジュールの開始時にエキスパートと選手に提示される。

5.8 競技課題の変更

競技課題は独立した競技課題考案者（ITPD）によって作成されるため、技能競技大会で競技課題/モジュールへの変更が求められることはない。ただし、競技課題文書の技術的ミスとインフラの制約から生じる修正は除く。

5.9 材料または製造業者の仕様

選手が競技課題を完了するために必要となる特定の材料および/または製造者の仕様は、大会開催組織より提供され、エキスパートセンターにあるリンク www.worldskills.org/infrastructure より入手できる。ただし、特定の材料および/または製造者仕様の詳細は秘密にされている場合があり、技能競技大会前に公開されない場合があることに注意すること。そのような物の中には、故障診断モジュールや公開されていないモジュールの物品が含まれる場合がある。

6 職種管理および情報伝達

6.1 ディスカッションフォーラム

職種競技に関する議論、情報伝達、協力および意思決定の全ては、技能競技大会に先立ち、職種限定のディスカッションフォーラムで実施すること (<http://forums.worldskills.org>)。職種に関連する決定および情報伝達は、フォーラム で実行された場合のみ有効とする。チーフエキスパート（またはチーフエキスパートが指名したエキスパート）が、このフォーラムの進行役となる。情報伝達に関するタイムラインおよび職種競技開発の要件については、競技規則を参照のこと。

6.2 選手の情報入手

大会登録された選手のための情報はすべて、選手センター (www.worldskills.org/competitorcentre) から入手できる。

入手可能な情報は以下の通り

- 競技規則
- 職種定義
- 採点集計様式（該当する場合）
- 競技課題（該当する場合）
- インフラリスト
- ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制
- その他の技能競技大会関連の情報

6.3 競技課題および採点スキーム

公開中の競技課題は、www.worldskills.org/testprojects および選手センター (www.worldskills.org/competitorcentre) から入手できる。

6.4 大会期間中の各日の職種管理

技能競技大会中の日々の職種の管理は、SCM（職種競技マネージャ）が指揮する職種管理チームが作成した職種管理計画に定められている。職種管理チームは、SCM（職種競技マネージャ）、チーフエキスパートおよび副チーフエキスパートで構成される。職種管理計画は、競技大会の6ヶ月前から順次策定され、競技大会で最終決定される。職種管理計画は、エキスパートセンター (www.worldskills.org/expertcentre) で閲覧することができる。

6.5 一般的な最良事例の手順

一般的な最良事例の手順では、最良事例の手順と職種限定規則（9）の違いを明確に説明する。一般的な最良事例の手順は、（倫理行動規程罰則システムを含む問題および紛争解決手順の一部として罰則が適用されるであろう）競技規則または職種限定規則への違反として、エキスパートおよび選手が責任を課されてはならないものである。場合により、選手に向けた一般的な最良事例の手順が採点スキームに反映されることもある。

トピック/タスク	最良事例の手順
機器の故障	<p>機器の故障が発生した場合には、選手は手を挙げ、直ちにエキスパートに知らせなければならない。エキスパートは選手が機器を使用できなかった時間をメモする。機器の不具合により失われた時間は、モジュールの標準時間の終了時に選手に与えられる。機器の故障前に保存していなかった作業に対しては、追加時間は与えられない。</p>
会議、電話とプレゼンテーション	<p>すべてのシナリオとロールプレイは、評価のために記録される必要がある。</p>

7 職種限定の安全要件

7.1 個人の保護具

開催国/地域の規約の情報として、ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制を参照すること。

タスク	つま先が覆われていてヒールのない丈夫な靴
安全エリア用の一般的なPPE (個人用防護具)	✓

8 材料および機材

8.1 インフラリスト

インフラリストには、大会開催組織が提供するすべての機材、材料、設備の詳細が記載されている。

インフラリストは、www.worldskills.org/infrastructureで入手可能である。

インフラリストには、次回の技能競技大会に向けて職種管理チームが要求した品目と数量が記載されている。大会開催組織は、物品の実際の数量、種類、ブランド、モデルを明記したインフラリストを順次更新する。**特定の材料および/または製造元の仕様の詳細は秘密にされている場合があり、技能競技大会の前に公開されない場合があることに注意すること。**そのような物の中には、故障診断モジュールや公開されていないモジュールの詳細が含まれる場合がある。

各技能競技大会において、職種管理チームは、次回の技能競技大会に備えたインフラリストの検討と更新を行わなければならない。職種競技マネージャは、スペースおよび/または機材の増加がある場合は必ず、技能競技大会ディレクターに報告しなければならない。

各技能競技大会において、技術オブザーバーは、その技能競技大会で使用されるインフラリストを監査する必要がある。

インフラリストには、選手および/またはエキスパートが持参する必要のある品目や選手の持参が禁止されている品目は含まれない。これらの品目は以下に記載する。

8.2 選手の工具箱

選手は、技能競技大会に工具箱を送ることはできない。全ての道具は大会開催組織が提供する。

8.3 選手が持参する材料・機材・工具

選手は材料、器具、道具を大会に持ち込むことはできない。

ただし、選手は、セクション7の職種限定の安全要件に記載されているとおり、自身の個人用防護具を用意しなければならない。

8.4 エキスパートが持参する材料・機材・工具

セクション7. 職種限定の安全要件に記載のとおり、エキスパートは自身の保護具を持参する必要がある。

エキスパートは、通訳者の保護具の持参にも責任を負うこと。

8.5 職種エリアで禁止されている材料・機材

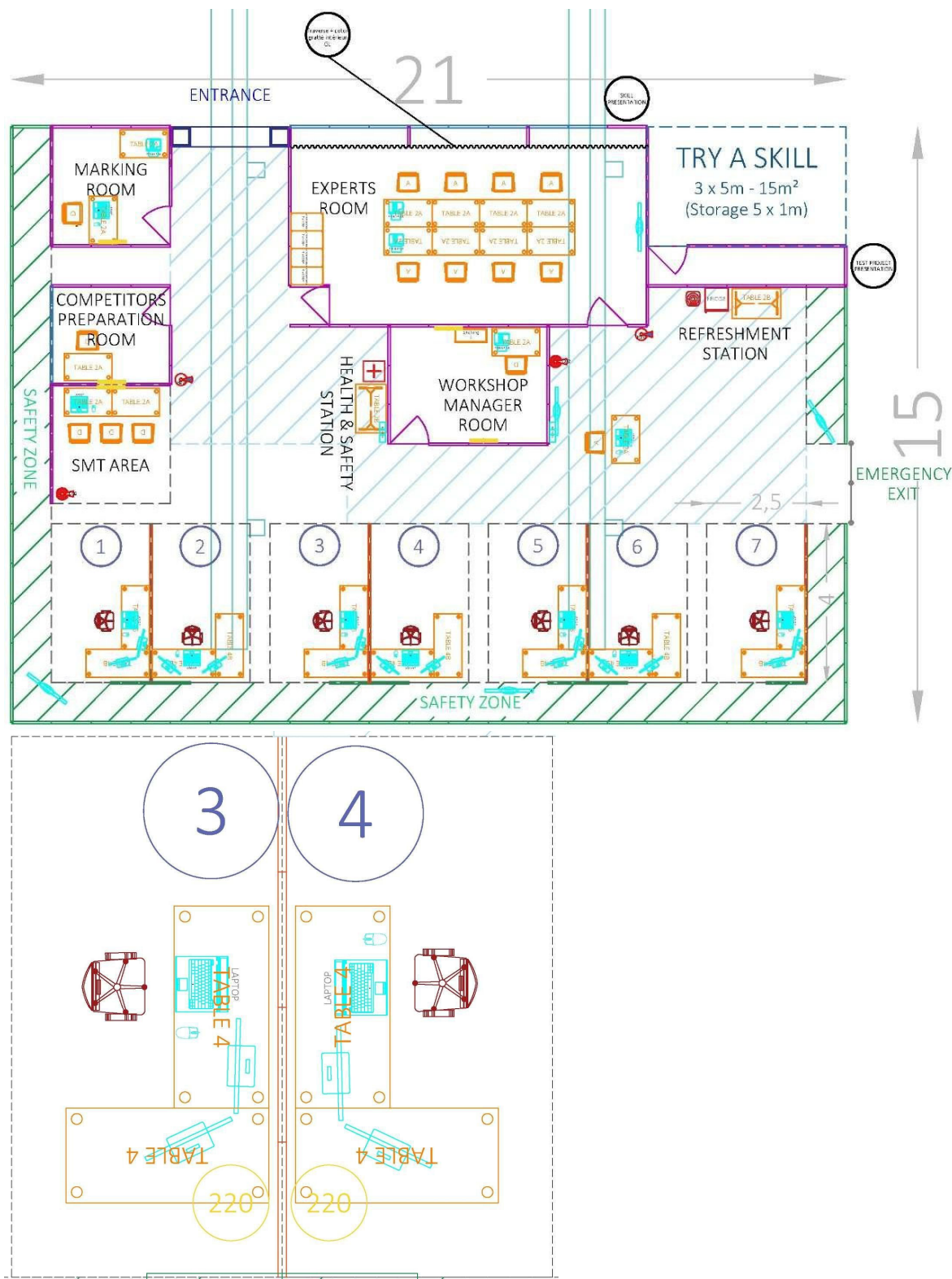
選手とエキスパートは、セクション8.3および8.4に記載されていない材料または機材の持ち込みを禁止されている。

禁止される材料と機器は、遅くとも大会開催1か月前に、エキスパートがワールドスキルズ・ディスカッション・フォーラム上で決定する。

8.6 ワークショップおよびワークステーションのレイアウト案

過去大会におけるワークショップのレイアウトは、 www.worldskills.org/sitelayoutで入手できる。

ワークショップレイアウトの例



9 職種限定規則

9.1 一般的な説明

職種別規則は競技規則と矛盾したり、競技規則に優先することはできない。職種競技によって異なる可能性のある部分については、具体的な詳細が明確に提供される。これには、個人のIT機器、データ記憶装置、インターネットアクセス、手順とワークフロー、文書管理と配布などがあるが、これらに限定されない。これらの規則に違反した場合は、倫理行動規程および行動ペナルティ制度を含む問題と紛争解決手続きに従って解決される。

9.2 職種限定規則

トピック/タスク	職種別規則
テクノロジーの活用 - USBメモリ、メモリースティック	<ul style="list-style-type: none"> • チーフ・エキスパート、選手、エキスパートは、いかなる形式のデジタル記録装置（RAM、ハードドライブなど）もワークショップ（各職種競技場）に持ち込んではならない。これらのデバイスをワークショップに持ち込む場合は、個人用ロッカーに入れて施錠する必要があり、1日の終わりとは昼食時にのみ取り出すことができる。 • この規則は、職種競技マネージャには適用されない。
テクノロジーの使用 - 個人のノートパソコン、タブレット、携帯電話	<ul style="list-style-type: none"> • 職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、選手、エキスパートは、個人のノートパソコン、タブレットや携帯電話を使用することはできない。 • これらのデバイスをワークショップに持ち込む場合は、個人用ロッカーに入れて施錠する必要があり、一日の終わりとは昼食時にのみ取り出すことができる。
テクノロジーの使用 - 個人の写真・動画撮影機器	<ul style="list-style-type: none"> • 職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、選手、エキスパートは、競技4日目の職種競技の終了時に限り、ワークショップで個人の写真・動画撮影機器を使用することができる。
図面、情報の記録	<ul style="list-style-type: none"> • 職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、エキスパート、選手は、いかなる場合においてもワークショップにメモを持ち込むことはできない。選手のワークステーション（各選手用作業場）で作成されたすべてのメモは、常に選手のデスクに置いておくこと。競技4日目に職種競技が終了するまで、ワークショップの外にメモを持ち出すことはできない。
インターネットの使用	<ul style="list-style-type: none"> • 職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、エキスパート、選手は、大会開催組織が提供するコンピュータで以下にアクセスすることはできない：個人的な電子メール • 競技課題に記載されている以外の電子メール • 競技課題に記載されている人物以外への電話

10 エキスパートの知識と経験

10.1 要件

本職種のエキスパートは、**セクション1.1.2**に記載されているとおり、適切な職務または業務の実施において、下記の知識と経験を有する必要がある。

このセクションはWSC2026に向けて現在作成中である。

11 来場者とマスコミに対する職種の情報活動

11.1 情報活動の方法

来場者とマスコミに対する職種の情報活動が最大限に見込める方法を以下に挙げる。

- 一連の作業は、来場者にすぐさまインパクトを与えるものではない。しかしながら、この職務の中核として、与えられる評点の約50%を占める見込みである。
- 選手は、問題の組み合わせについて事前に知らされない。いくつかの問題は、（役者を用いるなどして）双方向型でサプライズの要素を持つため、来場者にインパクトを与える。
- それぞれの重大な事件は緊急を要するものであり、俳優を巻き込み、広く知られた問題に関わるものであるため、大きなインパクトを与えるものとなるだろう。過去のニュース速報をこれらに利用することも可能である。

12 持続可能性

12.1 持続可能な実践活動

この職種競技では、以下の持続可能な実践に焦点を当てる：

この職種競技は、持続可能性と環境的要因に対する意識を持ち、同セクター（分野）に対する削減目標の適用を理解している業界内の人物により独立して考案されることが望まれる。少なくとも、1つの小さな事件と1つの大きな事件に、環境に関するテーマを持たせる。

必要な現実味を事件に与えるため、ロールプレイに慣れている同セクター内の人材を起用することが望ましい。これは費用の削減にもつながる。

13 産業界との協議に関する情報

13.1 一般的な説明

ワールドスキルズは、ワールドスキルズ職業基準において、産業界およびビジネスにおいて国際的に認められた最良事例のダイナミズムが完全に反映されるように保障することをコミットしている。そのために、ワールドスキルズは、2年周期で、関連する職業の役割についての説明案およびワールドスキルズ職業基準に対するフィードバックが提供できる、世界中の多くの組織にアプローチを行っている。

並行して、WSIは、3つの国際職業分類とデータベースを利用している。

- ISCO-08: (<http://www.ilo.org/public/english/bureau/stat/isco/isco08/>)
- ESCO: (<https://ec.europa.eu/esco/portal/home>)
- O*NET OnLine (www.onetonline.org/)

13.2 参考情報

このWSOS（セクション2）は、貨物輸送者に最も密接に関連しているようである。

<https://www.onetonline.org/link/summary/43-5011.01>

これは、貨物輸送マネージャーの下位バージョンである。

<http://data.europa.eu/esco/occupation/39803100-c338-4f01-ad2c-085d488920ca>

これらのリンクは類似した職業の検索にも使用できる。

ILO 3331

以下の表に、技能五輪国際大会（2026年上海大会）に向け、関連する職業の役割の説明とワールドスキルズ職業基準について打診され、有益なフィードバックを提供した組織を示す。

組織	担当者
アマゾン ウェブ サービス	Adrian Byrne、EMEA輸送・ロジスティクス・マネージャー
ログウィン・エア+オーシャン・シンガポール Pte Ltd	Jimmy Ler、マネージング・ディレクター
TGプロジェクト・ロジスティカ Ltda	Thiago Rodrigues Gonçalves、CEO

14 付録

14.1 付録情報

該当なし。